

令和3年度
「新しい学校推進 意見交換会」資料

【清水中学校区】【大野中学校区】

佐世保市教育委員会
新しい学校推進室

①現状（令和元年5月1日現在）

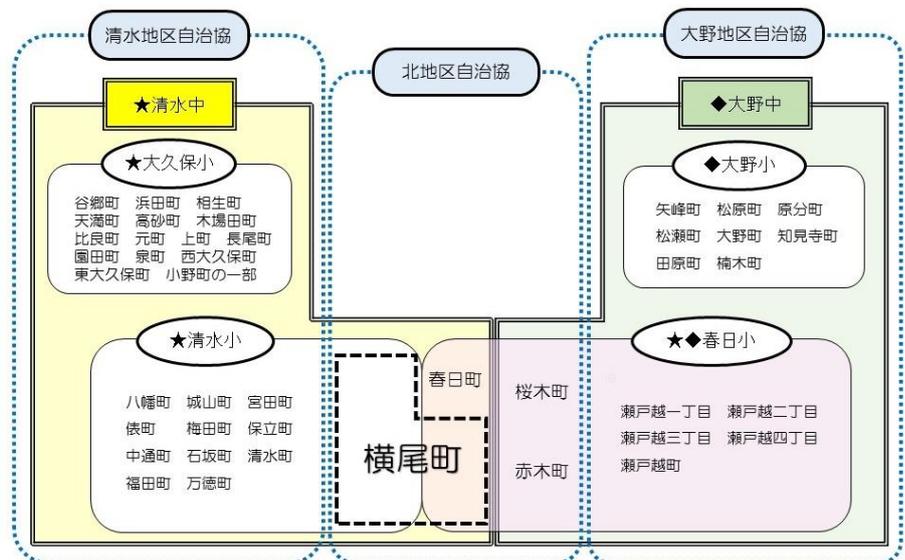
小学校	大久保小	清水小	春日小
児童数	124人	438人	624人
学級数（特別支援教室含む）	6(6)学級	15(19)学級	19(22)学級
建築年数	27年	14年	51年
校舎延床面積（施設台帳より）	2,678㎡	5,447㎡	6,157㎡
運動場面積	約4,600㎡	約4,500㎡	約16,700㎡
敷地面積	約8,500㎡	約8,700㎡	約32,400㎡
地区自治協議会区域	清水	清水 横尾町の 一部は北地区	大野 横尾町の一部、春日町、 桜木町、赤木町は北地区

中学校	清水中	大野中
生徒数	282人	579人
学級数（特別支援教室含む）	9(11)学級	16(19)学級
建築年数	61年	58年
校舎延床面積（施設台帳より）	5,437㎡	7,446㎡
運動場面積	約15,700㎡	約8,200㎡
敷地面積	約28,700㎡	約20,700㎡
地区自治協議会区域	清水 （春日町、横尾町の一部は北地区）	大野 （桜木町、赤木町は北地区）

※敷地面積には山林や法面（人工的な斜面）を含めておりません。

②「通学区域（校区）」と「地区自治協議会の区域」の現状

- ★5校会（清水中・清水小・大久保小・春日小）
◆3校会（大野中・大野小・春日小）



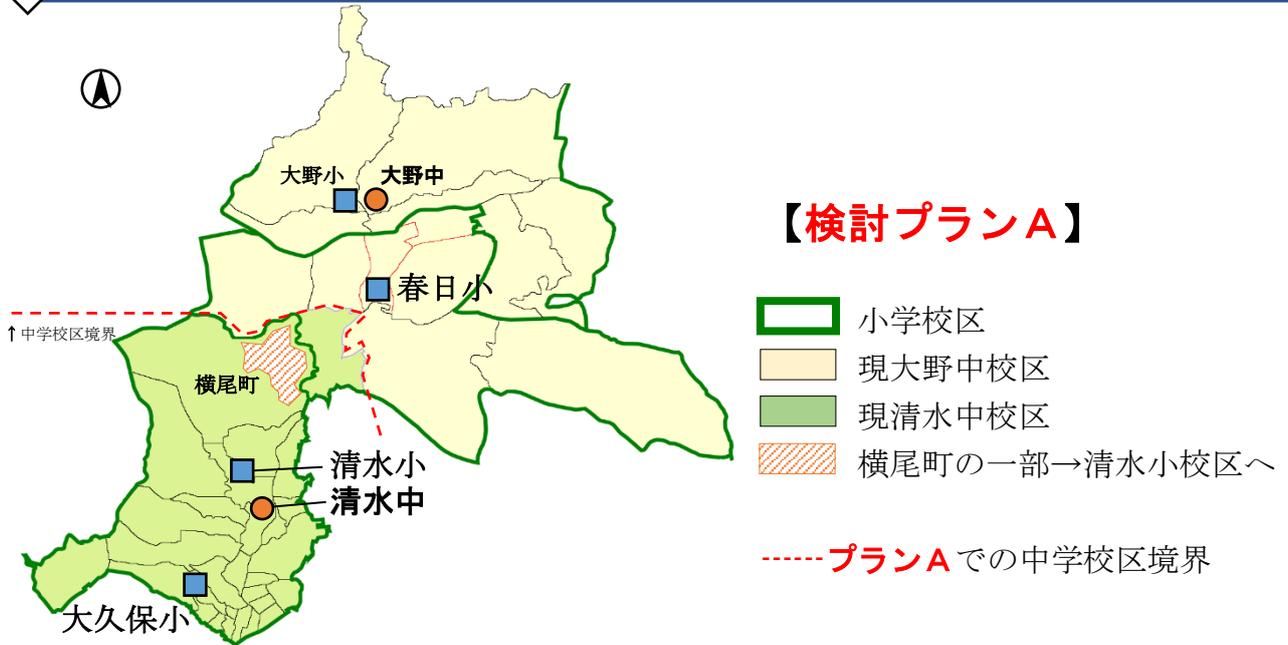
③「再編しない場合」と「大久保小と清水小を統合した場合」の児童生徒数の推計

再編しない場合		
学校名	令和元年 (5月1日現在)	20年後 (2040年推計値)
大久保小	124名	約140名
清水小	438名	約290名
春日小	624名	約370名
清水中	282名	約230名
大野中	579名	約350名

大久保小と清水小を統合した場合		
学校名	令和元年 (5月1日現在)	20年後 (2040年推計値)
大久保・清水 統合小	562名	約430名

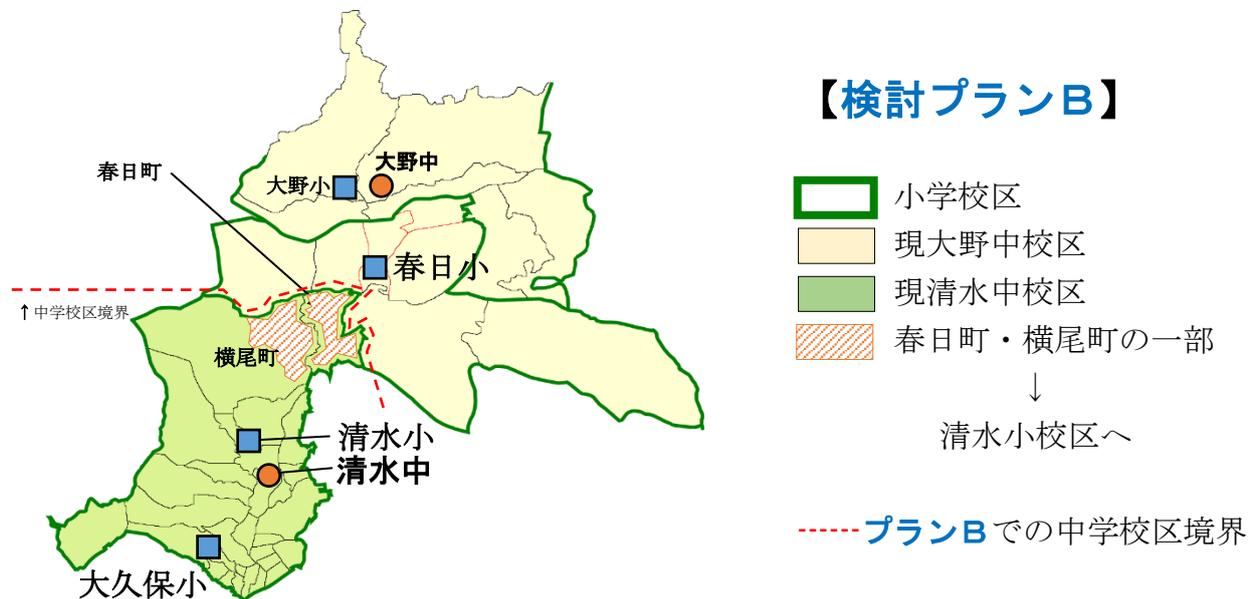
目的	<p>☆大久保小の小規模化の解消</p> <p>☆地区自治協区域（北地区、大野地区）に対する中学校区（大野中、清水中）の整理の可能性の検討</p>
再編案	<p>◎<u>大久保小と清水小を統合します。</u>（統合後の場所は清水小） （理由：清水小との統合により、大久保小の小規模化解消を優先するため。）</p> <p>◎<u>春日小、大野中、清水中は、現状のままとします。</u> （統合をしない理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春日小は今後、望ましい学校規模となることが予想されているため。 ・大野中は望ましい学校規模であるため。 ・清水中はやや小規模化しています。統合検討対象となる近隣中学校は、大野中と同じく、望ましい規模である祇園中や、金比良小と小中一貫型学校となっている光海中であり、現時点での統合は必要がないと思われるため。 <p>（通学区域の変更をしない理由）</p> <p>以下のA・B・Cの分け方で、通学区域の変更を検討した結果、清水小の大規模化につながるなど、現時点では変更のメリットが少ないと考えられるため。 （※ 詳しいメリット・デメリットは、5～6ページの資料参照）</p>
期待できる教育効果	<p>○大久保小の児童が、全学年でクラス替えが可能な、望ましい規模の学校で学ぶことができるようになります。</p>
留意点	<p>○大久保小を大切に思う、保護者や地域住民の皆様のご理解が最も重要です。</p> <p>○大久保小の児童で、現状より通学距離が長くなる地区が出てくる可能性があります。</p> <p>○通学区域を変更しない場合、春日小から進学先の中学校が清水中と大野中に分かれることや、校区が複数の地区にまたがっている課題の解消が図れないことです。</p>





【検討プランA】…春日小校区の横尾町（春日側）を、清水小校区へ変更する案

メリット	①横尾町が、清水小と春日小に分かれず、清水小校区のみに整理される。
デメリット	①春日小児童の進学先が、清水中と大野中に分かれる状態は解消できない。 ②春日小校区と大野中校区が大野地区と北地区に重なる状態は解消できない。 ③清水小（大久保小の統合を含む）の児童数が増加し、 <u>望ましい規模から大規模校となる。</u>



【検討プランB】…春日小校区の横尾町（春日側）と春日町を、清水小校区へ変更する案

メリット	①横尾町が、清水小と春日小に分かれず、清水小校区のみに整理される。 ②春日小児童の進学先が、清水中と大野中に分かれず、大野中のみに整理される。
デメリット	①春日町の児童は春日小に比べて通学距離が長くなる。 ②春日小校区と大野中校区が大野地区と北地区に重なる状態は解消できない。 ③清水小（大久保小を含む）の児童数が増加し、 <u>望ましい規模から大規模校となる。</u>



【検討プランC】…春日小校区の横尾町（春日側）、春日町、桜木町、赤木町を清水小校区へ変更、並びに、大野中校区の桜木町、赤木町を清水中校区へ変更する案	
メリット	①横尾町が、清水小と春日小に分かれず、清水小校区のみに整理される。 ②春日小児童の進学先が、清水中と大野中に分かれず、大野中のみに整理される。 ③大野地区自治協区域と春日小、大野中の校区が一致する。 ④北地区自治協区域が、大野中校区に重ならず、清水中校区（の一部）のみに整理される。
デメリット	①春日町、桜木町、赤木町の児童は春日小に比べて通学距離が長くなる。 ②清水小校区と清水中校区が清水地区と北地区に重なる状態は解消できない。 ③清水小（大久保小を含む）の児童数が増加し、 望ましい規模から大規模校となる 。 ④清水中は生徒数が増加するが、10学級程度にとどまり、適正規模に届かない。

【参考：各検討プランの児童生徒数推計】

検討プラン	プランA 横尾町（春日側）を清水へ	プランB 横尾町・春日町を清水へ	プランC 横尾町・春日町・桜木町・赤木町を清水へ
〔児童生徒数〕	R元年度 → R22年度	R元年度 → R22年度	R元年度 → R22年度
大久保・清水 統合小	597名 → 約440名	643名 → 約470名	750名 → 約530名
春日小	589名 → 約350名	543名 → 約320名	436名 → 約260名
大野中	579名 → 約350名	579名 → 約350名	542名 → 約320名
清水中	282名 → 約230名	282名 → 約230名	319名 → 約260名

① 学校小規模化対策のため、「大久保小と清水小を統合」することについて。

② 通学区域の在り方について。(横尾町・春日町・桜木町・赤木町…など)



○学校規模や通学距離を考えると、通学区域は現状維持が望ましいと考えるが、学校と地域の連携における課題はないか。